



安全な学校づくりの推進

校長 かとう けんじ
加藤 憲司

4月の保護者全体会でお話した、足立小学校の学校経営計画における今年度の重点の一つが「安全・安心な学校づくりの推進」です。その中で、本校で行っている安全教育について紹介します。

安全教育とは、「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」の3つの領域で構成されており、「**危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力の育成**」を目的として行うものです。自らの安全を予測し、回避する力を身に付けるとともに、小学生は、身の回りにある危険から守られる立場にあります。高学年くらいから自分自身の安全だけでなく、家族や地域の方など身近な人々の安全にも気配りをするなど、他者や地域社会の安全を意識して活動することが求められています。

① 生活安全

6月には、不審者の対応を学ぶセーフティ教室やスマートフォン等の安全な利用のほか、全学年で「**生命(いのち)の安全教育**」に取り組みます。「生命(いのち)の安全教育」は生命を大切にすることを理解し、性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにするための教育であり、昨年度から新たに全国の学校で実施しているものです。詳しくはこちらをご覧ください。[「生命\(いのち\)の安全教育チラシ\(東京都教育委員会\)」](#)



② 交通安全

登下校については、日頃から保護者、地域の皆様による見守り活動、感謝申し上げます。学校では、登下校時の交通安全の教育として、5月2日に「足立区内小・中学校交通安全の日」に関連した指導を全学年で行いました。また、5月22日には3年生が自転車安全教室を行いました。特に、ヘルメットの着用については、道路交通法が改正され、「**児童又は幼児を保護する責任のある者(保護者)は、児童又は幼児が自転車を運転するときは、当該児童又は幼児に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。**」とされています。警視庁によると、自転車事故で死亡した人の **64.9%**が、頭部に致命傷を負っており、ヘルメットを着用している場合と比較して、着用していない場合の致死率は約 **2.7倍**と高くなっており、ヘルメットの重要性がわかります。交通事故による被害を軽減するために、子供も大人もヘルメットの着用を努めていただきたいと思います。なお、今年度から **都立高校でもヘルメットの着用**が求められています。



③ 災害安全

令和6年1月1日には、能登半島地震が発生し、深刻な被害をもたらしています。東京都も、過去に関東大震災を経験し、近い将来、首都直下地震等の発生が危惧されています。

本校では、避難訓練に加えて、毎月「**シェイクアウト訓練**」を実施しています。シェイクアウト訓練とは、「そのときにいる場所」で地震が発生したと想定して素早く身を守る訓練です。校内放送を合図に、その時にいる場所で、「**落ちてこない、倒れてこない、移動してこない**」安全な場所に避難します。そして1分後「訓練終了」の合図で、終了となります。大きな揺れが発生したときに、素早く危険を回避する行動を取ることができるよう、引き続き実施してまいります。



5月11日には、引き渡し訓練を行いました。学校にお子さんが在校している時には、C4th Home & Schoolにて連絡し、連絡がつかない場合には、学校で安全に預かることとしています。